

カンキツのカイガラムシ対策

カイガラムシはカンキツ栽培における重要害虫で、葉や枝、果実に寄生して樹液等を吸汁し、密度が高くなると樹を枯死させることもあります。また排せつ物に繁殖するすす病菌によって果実が汚れ、寄生した果実の周囲は緑色が残り着色が遅れるなど、品質を著しく低下させます。

カイガラムシ防除のポイント

ントは、幼虫の発生時期を把握して、虫体に被覆物が十分に形成していない幼虫の発生ピークに防除を行うこと、冬期にカイガラムシの密度を下げるのが大切です。カイガラムシの種類・生態等を再確認し、適期防除につとめましょう。

イセリヤカイガラムシ

明治時代に



海外から侵入した害虫で、カンキツ地帯に広く分布しました。その後、有力な天敵であるベダリアテントウが導入され、多発することは少なくなっていました

が、近年、使用薬剤の変遷等により、本種が多発による「すす病」発生園が増加しています。

・生態

雌成虫は4〜6ミリメートルで、体の後方に白い大きな卵のうを伴います。カンキツのほかナシ、ナンテンなどの樹木、マメ科植物など寄生範囲の広い虫です。



イセリヤカイガラムシの寄生状況

越冬は主に幼虫で行われ、幼虫の主な発生は第1世代が5月下旬〜6月中旬、第2世代が8月中旬〜9月、第3世代が10月〜11月です。

・天敵

イセリヤカイガラムシの導入天敵であるベダリアテントウが非常に有効です。ベダリアテ



ントウ成虫は5ミリメートル程度で、翅に黒色の5つの斑紋があります。条件が良ければ年間8回程度発生し、1頭が一生に300〜400頭のイセリヤカイガラムシを捕食します。発生回数や捕食量が多いことから、短期間でイセリヤカイガラムシを駆逐します。

ベダリアテントウは4、5月及び10月以降に活動が盛んなため、イセリヤカイガラムシ発生園で本種を確認した場合は、影響の大きい薬剤の散布は控えましょう。

フジコナカイガラムシ

フジの他、

カキの害虫として知られ、

ミカンにも寄生します。雌



は3.5ミリメートル程度の黄褐色の楕円形で、体表は白色のロウ物質で覆われています。新梢部や果実の果梗



フジコナカイガラムシの寄生状況

部に寄生し、すす病を起して果実を汚損します。

・生態

1〜2齢幼虫で越冬し、年3回発生します。第1世代幼虫は6月上旬頃、第2世代幼虫は7月下旬頃、第3世代は9月下旬頃に発生します。ただし、日当たりや標高などの条件により、発生の早晚がみられます。

防除

・第1世代防除(6月中旬)

成虫になると被覆物質により防除がむずかしくなりますので、幼虫発生期に重点を置きます。薬剤はスプラサイド乳剤40を1500倍で、樹冠の奥まで液剤が行き届くように、たっぷり散布します。

・第2世代防除(7月〜8月)

この時期に孵化した幼虫は果実に寄生して大きな被害を与えるので、発生が見られたら、防除を十分に行う必要があります。

第1世代と同じように幼虫発生期にオリオン水和剤40を1000倍または、コルト顆粒水和剤を3000倍で、樹冠の奥まで液剤が行き届くように、たっぷり

散布します。

・越冬期防除(12月〜1月)

春以降の発生を少なくするためには、越冬期の防除が大切です。

せん定前の12月下旬から1月中旬にかけて、マシン油乳剤95%の40倍か、マシン油乳剤97%の60倍いずれかを散布すると効果的です。マシン油に包まれると呼吸ができず、窒息死します。越冬密度を下げることで、春以降の初発を大きく抑えます。

・越冬期応急防除(3月)

マシン油乳剤を12月〜1月に防除できなかったところは、発芽前までに散布し、冬期に2度散布しないようにしましょう。

前述したカイガラムシ各世代の発生時期は目安であり、その年の気象条件により前後します。圃場で樹体をよく観察し、効果的な時期に防除して被害を減らしましょう。また、農薬を使用する際は希釈倍率や使用時期、回数等を農薬ラベルで再確認してください。

危険物安全週間

危険物 決める無事故の ストライク

【期 間】

平成28年6月5日～11日

(毎年6月の第2週)

ガソリンスタンドなどでの危険物の取扱いの安全性の確立や皆さんの危険物に対する意識を高めることを目的とし、作られたのが危険物安全週間です。

危険物(ガソリン、灯油、油性塗料など)は取扱いによっては、大災害になる可能性がある危険なものなので、取扱いには十分注意しましょう。



平成28年4月出動件数

摘要		火災	救急
弓削		0	15
生名		0	3
岩城		0	9
魚島		0	2
合計		0	29
平成28年累計		1	139

平成28年4月30日現在

熱中症に気をつけよう

6月から気を付けよう
熱中症対策

熱中症の予防対策

6月から9月にかけて気温や湿度が高くなり、特に熱中症を起こしやすくなります。熱中症は夏の暑い時期だけではなく、季節の変わり目など気温が変化し、体が暑さに慣れていない時期に起こりやすく、最悪の場合には死に至る可能性もあるので、熱中症予防を心がけましょう。

熱中症の症状とは

熱中症は暑熱から起こる体の障害の総称で、日射病、熱けいれん、熱疲労、熱射病に分類されます。脱水により、脱力感、めまいや手足の筋肉の痛みなどの症状がおこります。

熱中症になってしまった場合の応急処置

☆エアコンの効いた部屋や日陰など涼しい環境に移動しましょう。
☆うちわや扇風機などで身体を冷やしましょう。
☆氷嚢などがあれば、首や



わきの下、太ももの付け根などに当てましょう。※これらの部位は大きな血管があるので、そこに流れる血液を冷やすことで、全身を効率的に冷やすことができます。

☆自分で水が飲める場合は、水分・塩分をしっかりと取りましょう。
☆自分で水分が取れない、いつまでも症状が改善しない場合、意識障害や嘔吐がある場合は迷わずに救急車を呼びましょう。



救急救命講習受講者募集
―救える命を守るために―
上島町消防署では、心肺蘇生法やAEDの活用を町民の皆さまに広げるために救命講習を行っています。家族や大切な人の命を守るために救命講習を受講して正しい知識と技術を身につけましょう。受講を希望される方は、上島町消防署までご連絡ください。

上島町アマチュア無線クラブ員募集!

地震等の災害時における情報通信手段として、上島町在住の無線愛好家が協働し、平成21年3月上島町アマチュア無線クラブを設立しました。
上島町アマチュア無線クラブは、この無線を活用したボランティア活動へ参加できる方を募集しています。

活動内容については、災害時に、災害情報を迅速に収集し、地域住民や行政機関に対し情報伝達を行うことです。
アマチュア無線に興味のある方は入会してみませんか? 詳しくは上島町消防本部までご連絡ください。